

## ガイダンス

### 1. 建築学と他の分野との関わり

→スライド参照

### 2. 建築環境工学のキーワード

→スライド参照

### 3. 環境共生学部で用意されている環境調整設備系科目の流れ

→スライド参照

### 4. 環境調整工学とは？

→スライド参照

## 5. 講義の予定

10月01日（月）	第01回目	ガイダンス
10月08日（月）	第02回目	居住環境調整の歴史（その1・森鷗外と建築環境工学） ←祝日でも授業あり
10月15日（月）	第03回目	居住環境調整の歴史（その2・女性と住環境改善）
10月22日（月）	第04回目	居住環境調整の歴史（その3・暖房の歴史）
10月29日（月）	第05回目	居住環境調整の歴史（その4・冷房の歴史）
11月05日（月）	第06回目	建築のライフサイクルマネジメント
11月12日（月）	第07回目	熊本大学大学院・田中智之先生の講演
11月19日（月）	第08回目	環境デザイン学と環境心理学
11月26日（月）	第09回目	大阪大学大学院・三田貴先生の講演
12月03日（月）	第10回目	地域の気候（都市気候とヒートアイランド）
12月10日（月）	第11回目	* 建築物のエネルギー管理
12月17日（月）	第12回目	地域の気候（クリマアトラスと都市計画への応用）
12月24日（月）	第13回目	地域の空気（大気汚染と大気汚染物質） ←祝日でも授業あり
01月21日（月）	第14回目	地域の音と振動（サウンドスケープと騒音）
01月28日（月）	第15回目	地域の光と色（光害と日照権）

\*：田中准教授が担当，それ以外は辻原が担当

注1) 上記のスケジュールは、あくまで予定です。検討を加えた結果、予定が大幅に変更になることもあります。十分注意してください。

注2) この講義では、居住環境の調整に関連する様々な話題を提供することを主眼としています。その中で、興味を持った部分について自分で積極的に学んで欲しいと考えています。したがって、復習、もしくは講義後の学習に力を入れてください。ただし、毎回の講義の前に、講義のタイトルの中やシラバスの説明にある単語やキーワードを調べておくと、より理解が深まると考えられます。なお、教科書は特に指定していません。

注3) この講義の狙いの一つは、様々な考え方があることに触れることですので、外部講師の選定にあたっては、環境調整工学と直接関係のない場合もあります。

6. 参考図書（順に、編著者名、書名、発行所、価格、熊本県立大学学術情報メディアセンター図書館所蔵情報（[]内）。）

- 1) 今村仁美・田中美都著「図説 やさしい建築環境 第3版」（学芸出版社，2,800円＋税，「建築環境工学 I・II」（2年生担当，担当者：辻原）教科書）[シラバス環境（3F），525.1||I44，0000364202]
- 2) 田中俊六監修『最新 建築設備工学 改訂版』（井上書院，3,200円＋税，「環境設備システム学」（3年生・前期担当，担当者：田中准教授）教科書）[シラバス環境（3F），528||Ta84，0000374666]
- 3) 福岡義隆編著『都市の風水土 都市環境学入門』（朝倉書店，3,500円＋税）[シラバス環境（3F），519||F82，0000220148] [和書（2F），519||F82，0000221369，0000221370] [書庫（4F），519||F82，0000250096]
- 4) 都市環境学教材編集委員会編『都市環境学 第2版』（森北出版，3,200円＋税）[シラバス環境（3F），518.8||To72，0000374667]

また、講義に関するその他の参考文献は、毎回配布する予定の資料の最後に載せる予定です。図書館の所蔵情報も載せる予定ですので、できるだけ多くの文献に積極的に目を通すようにしましょう。

7. 成績の評価

- 1) 講義終了後に提出してもらいミニレポートと最終レポートを総合して、評価する予定です。定期試験は行わない予定です。
- 2) ミニレポートが3割程度、講演会への出席が1割程度、最終レポートが6割程度として評価する予定です。細かな配分割合は変化させることもあります。
- 3) ミニレポートは、講義の後に配布するA4判のレポート用紙を用いて、講義の翌日の12:50までに（3限目が始まるまでに）担当者まで提出してください。講義の最初に課題「案」を提示します。この課題に沿ってレポートを書いても良いですし、異なる課題で書いても結構です。特に、どうしてそのように考えるのか、「なぜ?」、「どうして?」の部分をしっかり書くように心がけましょう。あわせて講義の感想・意見・要望・質問などがあれば、それらも書いてください。分量については特に指定はしませんが、A4判のレポート用紙の半分以上は書いて欲しいと思います。足りない場合は、裏面を使ってください。
- 4) 外部講師の方の講演の際には、A4判で1枚程度の感想文を、（基本的に）その次の講義の際に提出してください。感想文の提出を以て出席とします。また、感想文は講師の先生にもお渡しする予定です。

- 5) ミニレポートや外部講師の方の講演の際の感想文では、講義や講演の内容のまとめを求めている訳ではありません。話した内容を理解してもらっているか、を確認するために、講義や講演の内容のまとめを求める場合もありますが、基本的には話した本人は自分が話した内容がわかっています。それを40人分読むことを考えてみてください。

したがって、この講義では、話した内容を聴いて（もちろん配付資料の内容も含んで結構です）、どのように考えたか？に、力を入れて書いてください。例えば、「～と思った」という自分の気持ちを書くだけでなく、その気持ちを第三者にも共有してもらえるように丁寧に順を追って説明することを心がけてみましょう。さらに、どのような点から「～と思った」のか、どうして（なぜ）「～と思った」のか、「～と思った」ことを受けてどのようなことを考えたのか、などを中心に書くようにしてください。小学校以来書き続けてきた自分の気持ちを書くだけの「感想文」から、一步踏み出して、自分の「考え」を読み手に共有してもらえるレポートを目指しましょう。

このようにして、いろいろと「考える」ことは、間近に迫った就職活動の際に、少しでも役立つのではないかと考えています。

詳細は、「12. レポートの作成にあたって」を参照してください。なお、提出前に一度全体を読み返してみることを強くお勧めします。

## 8. 辻原担当分の講義を行うに当たって

- ・シラバスの通り、この科目を履修する受講生の目標は、私達を取り囲む居住環境をより良くするためには、環境調整の立場からだけでも、数多くの問題を考える必要があることを理解し、自ら進んで問題解決に取り組む姿勢を身に付けることです。特に、自分で、様々な視点から「考える」ことに取り組んで欲しいと考えています。
- ・シラバスで示した受講生の目標に沿って、この講義では、環境調整・設備分野に関連して、皆さんに知っておいてもらいたいと主担当の教員（辻原）が考える話題をできるだけ多く提供することを目的としています。したがって、それぞれの回の講義では、なかなか深い内容まで踏み込むことができません。そこで、配布資料には、数多くの様々な資料を載せるようにしています。自習の際の参考になるようにと考えてのことです。そのため、講義の際には触れない資料も出てきます。また、様々な観点からの参考文献も（図書館の所蔵情報を含めて）数多く配付資料に載せる予定です（主担当の教員（辻原）が、その内容に同意しかねるものも含まれています。ただし、一定程度内容が信頼できそうなもの、とはしています。）。主担当の教員（辻原）が提供する話題はあくまで「材料」に過ぎません。講義を聴いた後に、自ら、勉強を深めてもらおうことを強く望みます。
- ・上記の趣旨から、配付資料は穴埋め式とはしていません。また、配付資料の枚数も多くなりま

す。穴埋め式としないことについては、辻原担当の2年生配当の建築環境工学Ⅰ・Ⅱとは異なり、この講義では「考える」ことに主眼を置いており、「覚えなければならない」ことが多くないことにもよります。なお、大学の予算の関係から、カラーで印刷することは現在のところ不可能です。枚数が多いと感じる人や配付資料が不要だと感じる人は、申し出てください。何らかの対応をしたいと思います。

- ・講義では、パワーポイントを用います。スライドの内容と配付資料の内容が一致していることもあれば、あまり一致していないこともあります。また、配付資料の順番とスライドの順番がずれることもあります。これは、時間の都合上や最新の情報を提供するためにスライドの作成が後になることによります。特にこのような場合は、是非、配付資料の余白やノートなどにスライドの内容に関するメモを取り、自習の際の参考としてください。また、配付資料は前述のように今後の自習のための参考資料の意味もありますので、スライドを用いて説明しない内容もあります。逆に、ビジュアルに見てもらった方がよいものなどは、配付資料にはない内容でもスライドで提示することがあります。配付資料とスライドの性格の違いを考え、両者を見比べながら講義に参加し、配付資料の余白にメモを取るなどして対応してください。
- ・あるいは、講義中には、配付資料とは関係なくスライドに集中して講義を聴き、講義後に配付資料を見返しながら復習をする、というスタイルでも良いかもしれません。
- ・これまで説明したように、この講義で配付される配付資料は、パワーポイントのスライドを印刷する配付資料とはしていません。これには、配付するための資料と話をするためのスライドは性格が大きく異なると考えていることにもよります。
- ・これを機会に、是非メモを取る癖をつけてはいかがでしょうか。眠気防止にもなります。毎年、手を動かさないで眠くなると意見が見られますが、上記の点を考慮すれば、手を動かしてメモを取る場面は数多くあるはずです。自ら積極的に考えて、手を動かしましょう。
- ・眠気防止のためには、講義を聴いた後に必ず1つは何か質問やコメントをしようと考えながら、講義を聴くことも役に立ちます。その際には、講義の最後に書く感想・意見・要望などのためのミニレポートも活用しましょう。
- ・ノートを取ることを主担当の教員（辻原）から求めることはしませんが、ノートを取らないと講義の内容が頭に入らないという場合は、是非ノートを取るようにしてください。
- ・講義とは別に、できるだけ、皆さんの進路選択の参考となるような新聞記事、雑誌記事、書籍、資料、URLなども配布する予定です。4年間の大学生活も後半に入りました。そろそろ大学卒業後の進路を真剣に考える時期に来ているのではないのでしょうか？なお、配布する資料が読みにくい場合は、岡本助手に申し出てください。原本を見ることができます。
- ・「どこが大事かあまり理解できなかった。」や「ポイントが何かつかめない。」との意見があり

ます。主担当の教員（辻原）の説明の仕方にも問題があると思いますので、できる限りメリハリを付けるよう努力しますが、皆さんが接する情報の多くは、どこが大事か強調されていないものがほとんどです。また、聴く人の予備知識や経験のあるなしによって、同じ話を聞いたとしても、重要なポイントは異なってきます。自分自身で、どこが大切か、どこがポイントかをかぎ分ける訓練をしましょう。

- ・「以前の講義と重複しているものがある。」との意見がありますが、例え同じ内容を対象としていても、その内容へのアプローチが異なることがほとんどです。この点を理解してください。なお、主担当の教員（辻原）が非常に重要だと考える内容については、同じ内容を同じように繰り返し説明することもあります。
- ・「具体的に何を学んだかよくわからない」のは、主担当の教員（辻原）のプログラムの組み方にも問題があるとは思いますが、受講生本人の問題もあります。自分が知りたいと思うことだけを「教えられる」のが、大学の講義ではありません。この講義を聞いた上で、自ら問題点を探り出し、自分の手で解決していくのが、「学び」ではないでしょうか。もはや3年生も後期です。与えられ、教えられるだけの状態から抜け出ませんか。
- ・「これといって何かを学んだという達成感をあまり感じられなかった。」という意見がありますが、これまで述べてきたようにこの講義の狙いや性格を良く理解し、積極的に自ら学んでいこうとすれば、問題は解決するように思います。
- ・「この授業は必要なのか。」という意見がありますが、主担当の教員（辻原）としては、「皆さんに知っておいてもらいたい」と考える情報を提供するように努力したいと考えています。
- ・「ガイダンスで重複する部分があるのは無駄。」との意見もありますが、中には、何度説明しても理解してもらえない人もいますし、初めて受講する学生もいる可能性もありますので、理解してください。また、主担当の教員（辻原）としては、決まりごとなどは、その都度きちんと説明したいと考えています。

## 9. 配付資料

講義で配布する資料などは、できるだけ毎回下記のホームページにアップロードしておくので、必要な人や欠席した人は、各自でダウンロードしてください。

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/~m-tsuji/kougi.html/tyosei.html/tyosei.html>

上記の作業は、学生の皆さんの利便性を考えてのことですが、主担当の教員（辻原）個人としては、+αのサービスと考えています。欠席した場合などは、友人にコピーさせてもらうなど、皆さん各自で対応するのが本来の姿だと考えています。この点から、授業中に示すパワーポイント

トのスライドの内容についてはダウンロードできるようにはしていません。また、スライドの内容をダウンロードできるようにしないことについては、著作権法上の問題もあります。ただし、どうしてもスライドをプリントアウトしたものが欲しい、講義の最中にメモすることが不可能であった、などの要望があれば担当教員まで申し出てください。できる限り個別に対応したいと思います。

## 10. 担当者

担当者の連絡先などは、以下の通りです。

教授・辻原万規彦（主担当）

部屋：環境共生学部西棟（旧棟）4階南西角（407号室）

電話：096-321-6706, もしくは 096-383-2929（内線 492）

e-mail: m-tsuji@pu-kumamoto. ac. jp

准教授・田中昭雄（副担当）

部屋：環境共生学部西棟（旧棟）3階南西角（307号室）

電話：096-321-6703, もしくは 096-383-2929（内線 475）

e-mail: a-tanaka@pu-kumamoto. ac. jp

研究室助手・岡本孝美

部屋：環境共生学部西棟（旧棟）3階南西角・田中研究室／4階中央・岡本助手室

電話：096-383-2929（内線 482（嘱託職員室）／内線 475（田中研））

e-mail: okamoto@pu-kumamoto. ac. jp

## 11. 辻原担当分の講義を行う際のその他の留意事項

- 1) 主担当の教員（辻原）に対して生理的嫌悪感などを覚える場合には、その時点でその旨を申し出てください。主担当の教員（辻原）自身の努力で改善されるような内容であれば、極力改善するように努めます。しかし、主担当の教員（辻原）自身による改善が難しくなかつ正当だと考えられる理由を書面で提出した場合には、成績評価の際に、出席点に関する考慮を行います。ただし、その場合でも、レポートは必ず提出してください。
- 2) 講義時間以外で、担当者に質問をする際には、メールや電話で事前に連絡した方が確実に時間を確保できます。主担当の教員（辻原）の今年度のオフィスアワーは火曜日 3 時限（12:50

～14:20)の予定です(教務入試課教務班の掲示板などで再度確認してください。)が、この時間帯といえども緊急の会議などの用事が入る可能性もあります。事前に連絡がない場合は、やむを得ず対応できない可能性もあります。なお、特にスマートフォンなどからメールを送る際には、送り主の氏名を明記することを忘れないでください。送り主が明記されていないメールには返答しないこともあります。

- 3) 講義は、授業開始のチャイムがなったと同時に開始する予定です。チャイムが鳴る前に着席し、遅刻をしないようにしてください。一方、その日の進み具合によっては、講義の時間を延長することがあります。講義終了のチャイムが鳴った後、やむを得ない事情がある場合は、退室しても結構です。ただし、講義時間の延長がある点に充分注意し、その後の予定を組んでください。
- 4) 講義などの説明の際には、できるかぎり具体的な事例を交えて説明するように心がけています。しかし、これが雑談に聞こえる場合、もしくは本当に単なる雑談の場合で、それ以上聞きたくないと思われる場合は遠慮なく指摘してください。速やかに次の説明に移るように努力します。
- 5) 主担当の教員(辻原)としては、できるだけ中立の立場から素直に皆さんに話をするように心がけています。しかし、おかしいと感じた際には、遠慮なく指摘してください。直接指摘しにくい場合は、演習問題を提出する際に空欄に書くか、岡本助手に話すなどして指摘してください。性格については、一朝一夕ではなかなか直らないかもしれませんが、できるかぎり、改善するよう努力します。

## 12. レポートの作成にあたって

レポートは、人に読んでもらうためのものです。従って、自分で何を書いているのかわからないようなレポートは提出しないでください。レポートには必ず「読む人」がいます。レポートの評価を行うのは、「読む人」です。書き手が評価を行うものではありません。

まず、第一に、「読む人」に理解してもらえるように、わかるように、書くことを心がけましょう。→さらに一歩踏み込んで、読み手を納得させるためには、どのようなレポートを書けばいいのか、を考えてレポートを作成するように心がけてください。

この講義では、定期試験のかわりにレポート課題を出題する予定ですが、それまでにレポートの書き方について各自で充分検討し、習熟していることを強く望みます。

熊本県立大学 学術メディアセンター 図書館

(<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/~tosho/index-j.html>)の『蔵書検索』で、「論文作法」をキーワードとして検索すると、論文やレポートを書く際に参考となる様々な本がでてきますので、参考にしてください。熊本県立大学 学術メディアセンター 図書館に所蔵されている本や辻原の知っている範囲では、例えば、以下のような本



を、読んでみては如何でしょうか。

【入門編-学生生活の基本と共に】（順に、書名、編著者名、発行所、発行年月、価格、ISBN番号、熊本県立大学学術情報メディアセンター図書館所蔵情報（[]内）。以下同様。）

- 1) 『スタディスキルズ・トレーニング 大学で学ぶための25のスキル』（吉原恵子・間瀬泰直・富江英俊・小針誠, 実教出版, 2011年6月, 1,200円+税, ISBN:978-4-407-32243-9）〔就活・レポート（1F）, 377.15||Y87, 0000342518〕
- 2) 『レポート論文のStart Line 書ける自分を作る』（居駒永幸・畑中基紀・岡崎直也・斎藤静隆・永野宏志編, おうふう, 2012年10月, 1,500円+税, ISBN:978-4-273-03706-2）〔就活・レポート（1F）, 816.5||I37, 0000371521〕
- 3) 『大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ 第4版』（学習技術研究会編著, くろしお出版, 2015年4月, 1,800円+税, ISBN:978-4-87424-650-4）〔和書（2F）, 377.15||G16, 0000375698〕  
→初版（2002年発行）は〔和書（2F）, 377.15||G16, 0000261688〕〔書庫（4F）, 377.15||G16, 0000261864〕  
→改訂版（2006年発行）は〔和書（2F）, 377.15||G16, 0000311457〕  
→改訂版第4刷（2008年発行）は〔和書（2F）, 377.15||G16, 0000327677〕  
→第3版は（2011年発行）は〔和書（2F）, 377.15||G16, 0000350312〕
- 4) 『広げる知の世界 大学でのまなびのレッスン』（北尾謙治ほか, ひつじ書房, 2005年5月, 1,600円+税, ISBN:4-89476-242-0）〔和書（2F）, 377.15||Ki71, 0000293704〕
- 5) 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法 改訂第2版』（松本茂・河野哲也, 玉川大学出版部, 2015年3月, 1,500円+税, ISBN:978-4-472-40513-6）〔就活・レポート（1F）, 002.7||Ma81, 0000366076〕  
→初版（2007年発行）は〔和書（2F）, 002.7||Ma81, 0000309779〕
- 6) 『情報と知識の海-現代を航海するための 知のナビゲーター』（中澤務・森貴史・本村康哲編, くろしお出版, 2007年4月, 1,800円+税, ISBN:4-87424-372-5）〔和書（2F）, 377.15||N46, 0000309780〕
- 7) 『理系学部合格したら読む本』（井手弘人・内藤克浩・根本泰雄, 化学同人, 2007年5月, 1,200円+税, ISBN:978-4-7598-1097-4）〔和書（2F）, 377.9||I19, 0000309778〕〔書庫（4F）, 377.9||I19, 0000306485〕

【基礎編-1年生からのレポート作成のために】

- 8) 『講談社現代新書 2021 新版 大学生のためのレポート・論文術』（小笠原喜康, 講談社, 2009年11月, 720円+税, ISBN:978-4-06-288021-3）〔文庫本（3F）, 080||49||2021, 0000328004〕  
→初版（講談社現代新書1603, 2002年発行）は〔書庫（4F）, 080||49||1603, 0000259322〕
- 9) 『レポート・論文・プレゼン スキルズ レポート・論文執筆の基礎とプレゼンテーション』（石坂春秋, くろしお出版, 2003年3月, 1,400円+税, ISBN:4-87424-273-1）〔和書（3F）, 816.5, 9000006625〕
- 10) 『Wordを使った 大学生のための論文作成術 思考技術・情報処理技術を書く力へ』（佐良木昌, 明石書店, 2004年10月, 1,600円+税, ISBN:4-7503-1983-X）〔就活・レポート（1F）, 816.5||Sa69, 0000290926〕
- 11) 『レポート・論文の書き方入門 [第3版]』（河野哲也, 慶應義塾大学出版会, 2002年12月, 1,000円+税, ISBN:4-7664-0969-8）〔書庫（4F）, 816.5||Ko76, 0000285910〕  
→初版（1997年発行）は〔書庫（4F）, 816.5, 9000002010〕  
→改訂版（1998年発行）は〔書庫（4F）, 816.5||Ko76, 0000222982, 0000252694〕

【応用編-4年生での卒業論文も視野入れて】

- 12) 『平凡社新書 103 ぎりぎり合格への論文マニュアル』(山内志朗, 平凡社, 2001年9月, 700円+税, ISBN: 4-582-85103-7) [文庫本(3F), 080||H 51||103, 0000275301], [書庫(4F), 080||H 51||103, 0000270456]
- 13) 『NHK ブックス 1194 新版 論文の教室 レポートから卒論まで』(戸田山和久, NHK出版, 2012年8月, 1,200円+税, ISBN: 978-4-14-091194-5) [和書(3F), 816.5||To 17, 0000352921]  
→初版(NHKブックス954, 2002年発行)は[和書(3F), 816.5||To 17, 0000276644]
- 14) 『大学生と大学院生のための レポート・論文の書き方 第2版』(吉田健正, ナカニシヤ出版, 2004年4月, 1,500円+税, ISBN: 4-88848-868-1) [就活・レポート(1F), 816.5||Y 86, 0000312379]  
→初版(1997年発行)は[和書(3F), 816.5||Y 86, 0000263004]
- 15) 『これからレポート・卒論を書く若者のために』(酒井聡樹, 共立出版, 2007年5月, 1,800円+税, ISBN: 978-4-320-00574-7) [書庫(4F), 816.5||Sa 29, 0000309758]
- 16) 『建築系学生のための卒業論文の書き方』(山口廣・笠井芳夫・浅野平八, 井上書院, 2008年4月, 1,800円+税, ISBN: 978-4-7530-1056-1) [和書(2F), 520.7||Y 24, 0000317372]
- 17) 『論文はデザインだ!』(渡邊研司, 彰国社, 2008年5月, 1,95円+税, ISBN: 978-4-395-24107-1) [和書(2F), 520.7||W 46, 0000317373] [書庫(4F), 520.7||W 46, 0000314903]

上記の全てに目を通す必要は全くありませんが、今後、4年生になって研究室に配属された際にも必要になるでしょうから、気に入ったものを1冊くらい手元に置いておくとよいと思います。

その他にも、いろいろな本がありますので、大学の売店(丸善)や下記の本屋などで探してみてください。

- 1) 紀伊國屋書店 熊本光の森店(営業時間: 10:00～22:00, 年中無休)  
〒869-1108 菊池郡菊陽町光の森7-33-1 ゆめタウン光の森内2F  
電話: 096-233-1700 FAX: 096-233-1701  
<https://www.kinokuniya.co.jp/c/store/Kumamoto-Hikari-no-Mori-Store/>
- 2) 紀伊國屋書店 熊本はません店(営業時間: 10:00～22:00, 年中無休)  
〒862-0965 熊本市南区田井島1-2-1 ゆめタウンはません3F(4月20日から再開予定)  
電話: 096-377-1330 FAX: 096-377-1339  
<https://www.kinokuniya.co.jp/c/store/Kumamoto-Hamasen-Store/>
- 3) 蔦屋書店 熊本三年坂(営業時間: 09:00～深夜01:00, 元日店休)  
〒860-0801 熊本市中央区安政町1-2  
電話: 096-212-9111 FAX: 096-212-9890  
<http://store-tsutaya.tsite.jp/storelocator/detail/8000.html>
- 4) 熊本大学生協の学生会館ショップ書籍・雑誌コーナー(営業時間: 8:10～19:00(土日祝休み))  
〒860-8555 熊本市中央区黒髪2-40-1  
電話: 096-343-6321 FAX: 096-345-8239  
<http://ha9.seikyuu.ne.jp/home/kumamoto-u/index.html>

→生活協同組合熊本インターカレッジコープアカデミアも参照

→→<http://kyushu.seikyoku.ne.jp/in-km/>

また、下記のホームページなどが参考になるかもしれません。その他に、自分でも、「レポート」、「書き方」などのキーワードで検索してみてください。大量に検索できるはずです。

[http://asc.high.hokudai.ac.jp/learning\\_support/seminar/report.php](http://asc.high.hokudai.ac.jp/learning_support/seminar/report.php)

<http://www.lib.saga-u.ac.jp/guide/report/>

<http://www.hosei.ac.jp/library/shien/report/>

<http://www.mycon10ts.com/linkall2.htm>

<http://www.mycon10ts.com/top.htm>

[http://www.ceser.hyogo-u.ac.jp/naritas/write\\_paper/paper.html](http://www.ceser.hyogo-u.ac.jp/naritas/write_paper/paper.html)

<http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/~urakami/class.html>

<http://www1.gifu-u.ac.jp/~shogo/informationliteracy/index.html>

[http://www.geocities.jp/chigasaki\\_rihabilitation/report.html](http://www.geocities.jp/chigasaki_rihabilitation/report.html)

<http://www.reportreport.jp/>

<http://www.shouronbun.com/>

[http://www.sgu.ac.jp/eco/rp/eco\\_report00.html](http://www.sgu.ac.jp/eco/rp/eco_report00.html)

<http://www.report.gusoku.net/>

<http://www.ia.inf.shizuoka.ac.jp/~nomiyama/report.htm>

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~nakasumi/reportp.htm>

<http://www.thesis-report.com>

<http://yonosuke.net/eguchi/archives/587>

<http://www.happycampus.co.jp>

<http://daikore.com/report/>

<http://www.agu.ac.jp/~nomura/lecture/report.htm>

<http://magazine.campus-web.jp/archives/210744>

<http://mcn-www.jwu.ac.jp/~kuto/Writing/HowToWrite.html>

注) これらのサイトの内容については、自分の責任で確認して下さい。辻原自身が全ての内容を確認したわけではありません。